

特定非営利活動法人 スペース・アンド・タイム・クリエーション 定款

第1章 総則

(名称)

第1条 この法人は、特定非営利活動法人スペース・アンド・タイム・クリエーションという。

(事務所)

第2条 この法人は、主たる事務所を山形県寒河江市大字米沢字富沢566番地の1に置く。

第2章 目的及び事業

(目的)

第3条 この法人は、山形県内外の方に対して、生涯学習、健康・福祉、体育・スポーツ、観光、文化・芸術、そして地域の振興・連携を図り、それらに必要な情報の収集・調査研究・提供、各種スポーツ選手・指導者の育成及び派遣、各種必要な研修、施設管理・運営活動等に関する事業を行い、健全な精神の涵養を図り、幼児から高齢者まで豊かで健やかな人生を送れる社会の実現に寄与することを目的とする。

(特定非営利活動の種類)

第4条 この法人は、第3条の目的を達成するため、次に掲げる種類の特定非営利活動を行う。

- (1) 保険、医療又は福祉の増進を図る活動
- (2) 社会教育の推進を図る活動
- (3) まちづくりの推進を図る活動
- (4) 観光の振興を図る活動
- (5) 農山漁村又は中山間地域の振興を図る活動
- (6) 学術、文化、芸術又はスポーツの振興を図る活動
- (7) 環境の保全を図る活動
- (8) 災害救援活動
- (9) 地域安全活動
- (10) 国際協力の活動
- (11) 子どもの健全育成を図る活動
- (12) 経済活動の活性化を図る活動
- (13) 職業能力の開発又は雇用機会の拡充を支援する活動
- (14) 前各号に掲げる活動を行う団体の運営又は活動に関する連絡、助言又は援助の活動

(事業)

第5条 この法人は、第3条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 特定非営利活動に係る事業
 - ① 保険、医療又は福祉の増進を図る活動に関する事業
 - i 安心安全な食糧の普及、自然食の生産、販売に関する調査研究、提案、運営事業
 - ii 心理カウンセリング又はセラピーに関する調査研究、提案、運営事業
 - iii 地域医療、地域保健福祉に関する調査研究、提案、運営事業
 - iv 社会的弱者の参画の機会拡大を図る事業の調査研究、提案、運営事業
 - v 住民生活のセーフティーネットの構築に向けての調査研究、提案、運営事業
 - vi 高齢者の働く場・交流の場作りを通じての福祉に関する調査研究、提案、運営事業
 - vii 各種スポーツを通じての健康・福祉に関する調査研究、提案、運営事業
 - ② 社会教育の推進を図る活動に関する事業
 - i 生涯学習に関する調査研究、提案、運営事業
 - ii 各種スポーツを通じての生涯教育の調査研究、提案、運営事業
 - ③ まちづくりの推進を図る活動に関する事業
 - i 地域共生型のネットワークシステムやライフサイクル及び社会基盤の調査研究、提案、運営事業
 - ii 地域産業に関する調査研究、提案、活性化事業
 - iii インターネット社会に関する調査研究、提案、運営事業
 - iv 地域交通に関する調査研究、提案、運営事業
 - v 廃校や空家の有効活用に関する調査研究、提案、活用事業
 - vi 中山間地域の振興に関する調査研究、提案、運営事業

- vii 各種スポーツを通じての観光・地域振興に関する調査研究、提案、運営事業
 - ④ 観光の振興を図る活動
 - i 地域資源を観光に結びつける為の調査研究、提案、運営事業
 - ii 都市との交流に関する調査研究、提案、運営事業
 - iii グリーンツーリズム及びエコツーリズム等の調査研究、提案、運営事業
 - iv 体験観光に関する調査研究、提案、運営事業
 - ⑤ 農山漁村又は中山間地域の振興を図る活動
 - i 地域協働型の振興策の調査研究、提案、運営事業
 - ii 地域農業及び産業に関する調査研究、提案、活性化事業
 - iii 里山保全や耕作放棄地の利活用に関する調査研究、提案、運営事業
 - iv 地域再生に関する調査研究、提案、運営事業
 - v 廃校や空家の有効活用に関する調査研究、提案、活用事業
 - vi 農山漁村又は中山間地域の活性化に関する調査研究、提案、運営事業
 - vii 地域資源の開発に関する調査研究、提案、活用事業
 - viii 再生可能エネルギーに関する調査、提案、活用事業
 - ⑥ 学術、文化、芸術又はスポーツの振興を図る活動に関する事業
 - i 各種スポーツ大会や教室の開催、各種スポーツの振興・普及・啓発に関する調査研究、提案、運営事業
 - ii 各種スポーツの振興に関する情報収集・提供に関する調査研究、提案、運営事業
 - iii 各種スポーツ選手・指導者の育成及び派遣、研修に関する調査研究、提案、運営事業
 - iv 各種スポーツに必要な資格取得に関する調査研究、提案、教授事業
 - v 伝統文化、伝統芸能、伝統芸術の復興及び継承に関する調査研究、提案、運営事業
 - ⑦ 環境の保全を図る活動に関する事業
 - i 自然環境問題に関する調査研究、解決、提案事業
 - ii 再生可能エネルギーに関する調査研究、提案、運営事業
 - iii ゴミ、廃棄物等が環境にもたらす影響に関する調査研究、提案、運営事業
 - iv リサイクルに関する調査研究、提案、運営事業
 - v 耕作放棄地の保全、再生に関する調査研究、提案、運営事業
 - vi ナショナルトラストに関する調査研究、提案、運営事業
 - vii 山林及び里山に関する資源調査研究、提案、活用事業
 - viii 河川及び湖沼に関する資源調査研究、提案、活用事業
 - ⑧ 災害救援活動に関する事業
 - i 災害時における避難活動支援、食糧支援、避難場所提供等に関する調査研究、提案、運営事業
 - ⑨ 地域安全活動に関する事業
 - i 安心安全な、明るく住みよい地域社会を実現するための調査研究、提案、運営事業
 - ii 地域防災に関する調査研究、提案、運営事業
 - ⑩ 国際協力の活動に関する事業
 - i 国際協力に関する調査研究、提案、運営事業
 - ⑪ 子どもの健全育成を図る活動に関する事業
 - i 子どもの自然体験、交換留学、体験学習等教育に関する調査研究、提案、運営事業
 - ii フリースクール・サマースクール及びスポーツ少年団等に関する調査研究、提案、運営事業
 - iii 各種スポーツを通じて健全育成を図る調査研究、提案、運営事業
 - ⑫ 経済活動の活性化を図る活動に関する事業
 - i あらゆる地域との連携を図り経済活動の活性化を実現するための調査研究、提案、運営事業
 - ii 各種スポーツを通じて地域経済の活性化を図るための調査研究、提案、運営事業
 - ⑬ 職業能力の開発又は雇用機会の拡充を支援する活動に関する事業
 - i 雇用機会の拡充の支援に関する調査研究、提案、運営事業
 - ⑭ 行政、教育機関、民間からの委託管理、指定管理者制度等による施設管理運営事業
 - ⑮ その他前各号の活動に必要な事業
 - ⑯ その他目的を達成するために必要な事業
- (2) その他の事業
- ① 飲食品等の販売事業
 - ② その他物品の販売事業
 - ③ その他特定非営利活動に係る事業以外の必要な事業

2 前項第2号に掲げる事業は、同項第1号に掲げる事業に支障がない限り行うものとし、利益を生じた場合は、同項第1号に掲げる事業に充てるものとする。

第3章 会員

(種別)

第6条 この法人の会員は、次の2種とし、正会員をもって特定非営利活動促進法（以下「法」という。）上の社員とする。

- (1) 正会員 この法人の目的に賛同して入会した個人
- (2) 賛助会員 この法人の事業を賛助するために入会した個人及び団体

(入会)

第7条 会員の入会については、特に条件を定めない。

2 会員として入会しようとするものは、理事長が別に定める入会申込書により、理事長に申し込むものとし、理事長は、正当な理由がない限り、入会を認めなければならない。

3 理事長は、前項のもの入会を認めないときは、速やかに、理由を付した書面をもって本人にその旨を通知しなければならない。

(入会金及び会費)

第8条 会員は、総会において別に定める入会金及び会費を納入しなければならない。

(会員の資格の喪失)

第9条 会員が次の各号の一に該当するに至ったときは、その資格を喪失する。

- (1) 退会届の提出をしたとき。
- (2) 本人が死亡し、又は会員である団体が消滅したとき。
- (3) 継続して1年以上会費を滞納したとき。
- (4) 除名されたとき。

(退会)

第10条 会員は、理事長が別に定める退会届を理事長に提出して、任意に退会することができる。

(除名)

第11条 会員が次の各号の一に該当するに至ったときは、総会の議決により、これを除名することができる。この場合、その会員に対し、議決の前に弁明の機会を与えなければならない。

- (1) この定款等に違反したとき。
- (2) この法人の名誉を傷つけ、又は目的に反する行為をしたとき。

(抛出金品の不返還)

第12条 既納の入会金、会費及びその他の抛出金品は、返還しない。

第4章 役員及び職員

(種別及び定数)

第13条 この法人に次の役員を置く。

- (1) 理事 3人以上5人以内
 - (2) 監事 1人以上2以内
- 2 理事のうち、1人を理事長、2人を代表理事とする。

(選任等)

第14条 理事及び監事は、総会において選任する。

- 2 理事長及び代表理事は、理事の互選とする。
- 3 役員のうちには、それぞれの役員について、その配偶者若しくは3親等以内の親族が1人を超えて含まれ、又は当該役員並びにその配偶者及び3親等以内の親族が役員の総数の3分の1を超えて含まれることになってはならない。
- 4 監事は、理事又はこの法人の職員を兼ねることができない。

(職務)

第15条 理事長と代表理事は、この法人を代表し、その業務を総理する。

2 理事長と代表理事の3名が、法人の業務について共同代表とし、その他の理事はこの法人を代表しない。

3 代表理事は、理事長を補佐し、理事長に事故あるとき又は理事長が欠けたときは、その職務を代行する。

4 理事は、理事会を構成し、この定款の定め及び理事会の議決に基づき、この法人の業務を執行する。

5 監事は、次に掲げる職務を行う。

(1) 理事の業務執行の状況を監査すること。

(2) この法人の財産の状況を監査すること。

(3) 前2号の規定による監査の結果、この法人の業務又は財産に関し不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実があることを発見した場合には、これを総会又は所轄庁に報告すること。

(4) 前号の報告をするため必要がある場合には、総会を招集すること。

(5) 理事の業務執行の状況又はこの法人の財産の状況について、理事に意見を述べ、若しくは理事会の招集を請求すること。

(任期等)

第16条 役員任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

2 前項の規定にかかわらず、後任の役員が選任されていない場合には、任期の末日後最初の総会が終了するまでその任期を延長する。

3 補欠のため、又は増員によって就任した役員任期は、それぞれの前任者又は現任者の任期の残存期間とする。

4 役員は、辞任又は任期満了後においても、後任者が就任するまでは、その職務を行わなければならない。

(欠員補充)

第17条 理事又は監事のうち、その定数の3分の1を超える者が欠けたときは、遅滞なくこれを補充しなければならない。

(解任)

第18条 役員が次の各号の一に該当するに至ったときは、総会の議決により、これを解任することができる。

この場合、その役員に対し、議決する前に弁明の機会を与えなければならない。

(1) 心身の故障のため職務の遂行に堪えないと認められるとき。

(2) 職務上の義務違反その他役員としてふさわしくない行為があったとき。

(報酬等)

第19条 役員は、その総数の3分の1以下の範囲内で報酬を受けることができる。

2 役員には、その職務を執行するために要した費用を弁償することができる。

3 前2項に関し必要な事項は、総会の議決を経て、理事長が別に定める。

(職員)

第20条 この法人に、事務局長その他の職員を置く。

2 職員は、理事長が任免する。

第5章 総会

(種別)

第21条 この法人の総会は、通常総会及び臨時総会の2種とする。

(構成)

第22条 総会は、正会員をもって構成する。

(権能)

第23条 総会は、以下の事項について議決する。

(1) 定款の変更

(2) 解散

(3) 合併

(開催)

第24条 通常総会は、毎事業年度1回開催する。

2 臨時総会は、次の各号の一に該当する場合に開催する。

- (1) 理事会が必要と認め招集の請求をしたとき。
- (2) 正会員総数の2分の1以上から会議の目的である事項を記載した書面をもって招集の請求があったとき。
- (3) 第15条第5項第4号の規定により、監事から招集があったとき。

(招集)

第25条 総会は、第24条第2項第3号の場合を除き、理事長が招集する。

2 理事長は、第24条第2項第1号及び第2号の規定による請求があったときは、その日から30日以内に臨時総会を招集しなければならない。

3 総会を招集するときは、会議の日時、場所、目的及び審議事項を記載した書面又は電磁的方法をもって、少なくとも会日の5日前までに通知しなければならない。

(議長)

第26条 総会の議長は、その総会において、出席した正会員の中から選出する。

(定足数)

第27条 総会は、正会員総数の2分の1以上の出席がなければ開会することができない。

(議決)

第28条 総会における議決事項は、第25条第3項の規定によってあらかじめ通知した事項とする。

2 総会の議事は、この定款に規定するもののほか、出席した正会員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

3 理事又は社員が総会の目的である事項について提案した場合において、社員の全員が書面又は電磁的方法により同意の意思表示をしたときは、当該提案を可決する旨の社員総会の決議があったものとみなす。

(表決権等)

第29条 各正会員の表決権は、平等なるものとする。

2 やむを得ない理由のため総会に出席できない正会員は、あらかじめ通知された事項について書面又は電磁的方法をもって表決し、又は他の正会員を代理人として表決を委任することができる。

3 前項の規定により表決した正会員は、第27条、第28条第2項、第30条第1項第2号及び第51条の適用については、総会に出席したものとみなす。

4 総会の議決について、特別の利害関係を有する正会員は、その議事の議決に加わることはできない。

(議事録)

第30条 総会の議事については、次の事項を記載した議事録を作成しなければならない。

- (1) 日時及び場所
- (2) 正会員総数及び出席者数（書面又は電磁的方法による表決者もしくは表決委任者がある場合においては、その数を付記すること。）
- (3) 審議事項
- (4) 議事の経過の概要及び議決の結果
- (5) 議事録署名人の選任に関する事項

2 議事録には、議長及びその会議において選任された議事録署名人2人以上が署名、押印しなければならない。

3 前2項の規定に関わらず、正会員全員が書面又は電磁的方法により同意の意思表示をしたことにより、総会の決議があったとみなされた場合においては、次の事項を記載した議事録を作成しなければならない。

- (1) 総会の決議があったものとみなされた事項の内容
- (2) 前号の事項の提案をした者の氏名又は名称
- (3) 総会の決議があったものとみなされた日
- (4) 議事録の作成に係る職務を行った者の氏名

第6章 理事会

(構成)

第31条 理事会は、理事をもって構成する。

(権能)

第32条 理事会は、この定款で定めるもののほか、次の事項を議決する。

- (1) 総会に付議すべき事項
- (2) 総会の議決した事項の執行に関する事項
- (3) 事業計画及び活動予算並びにその変更
- (4) 事業報告及び活動決算
- (5) 役員を選任又は解任、職務及び報酬
- (6) 入会金及び会費の額
- (7) 借入金（その事業年度内の収益をもって償還する短期借入金を除く。第50条において同じ。）その他新たな義務の負担及び権利の放棄
- (8) 事務局の組織及び運営
- (9) その他運営に関する重要事項
- (10) その他総会の議決を要しない会務の執行に関する事項

(開催)

第33条 理事会は、次の各号の一に該当する場合に開催する。

- (1) 理事長が必要と認めたとき。
- (2) 理事総数の2分の1以上から会議の目的である事項を記載した書面をもって招集の請求があったとき。
- (3) 第15条第5項第5号の規定により、監事から招集の請求があったとき。

(招集)

第34条 理事会は、理事長が招集する。

- 2 理事長は、第33条第2号及び第3号の規定による請求があったときは、その日から30日以内に理事会を招集しなければならない。
- 3 理事会を招集するときは、会議の日時、場所、目的及び審議事項を記載した書面又は電磁的方法をもって、少なくとも会日の5日前までに通知しなければならない。

(議長)

第35条 理事会の議長は、理事長がこれに当たる。

(議決)

第36条 理事会における議決事項は、第34条第3項の規定によってあらかじめ通知した事項とする。

- 2 理事会の議事は、理事総数の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(表決権等)

第37条 各理事の表決権は、平等なるものとする。

- 2 やむを得ない理由のため理事会に出席できない理事は、あらかじめ通知された事項について書面又は電磁的方法をもって表決することができる。
- 3 前項の規定により表決した理事は、第36条第2項及び第38条第1項第2号の適用については、理事会に出席したものとみなす。
- 4 理事会の議決について、特別の利害関係を有する理事は、その議事の議決に加わることはできない。

(議事録)

第38条 理事会の議事については、次の事項を記載した議事録を作成しなければならない。

- (1) 日時及び場所
 - (2) 理事総数、出席者数及び出席者氏名（書面又は電磁的方法による表決者にあつては、その旨を付記すること。）
 - (3) 審議事項
 - (4) 議事の経過の概要及び議決の結果
 - (5) 議事録署名人の選任に関する事項
- 2 議事録には、議長及びその会議において選任された議事録署名人2人以上が署名、押印しなければならない

い。

第7章 資産及び会計

(資産の構成)

第39条 この法人の資産は、次の各号に掲げるものをもって構成する。

- (1) 設立の時の財産目録に記載された資産
- (2) 入会金及び会費
- (3) 寄付金品
- (4) 財産から生じる収益
- (5) 事業に伴う収益
- (6) その他の収益

(資産の区分)

第40条 この法人の資産は、これを分けて特定非営利活動に係る事業に関する資産及びその他の事業に関する資産の2種とする。

(資産の管理)

第41条 この法人の資産は、理事長が管理し、その方法は、総会の議決を経て、理事長が別に定める。

(会計の原則)

第42条 この法人の会計は、法第27条各号に掲げる原則に従って行うものとする。

(会計の区分)

第43条 この法人の会計は、これを分けて特定非営利活動に係る事業に関する会計及びその他の事業に関する会計の2種とする。

(事業計画及び予算)

第44条 この法人の事業計画及びこれに伴う活動予算は、理事長が作成し、総会の議決を経なければならない。

(暫定予算)

第45条 前条の規定にかかわらず、やむを得ない理由により予算が成立しないときは、理事長は、理事会の議決を経て、予算成立の日まで前事業年度の予算に準じ収益費用を講じることができる。

2 前項の収益費用は、新たに成立した予算の収益費用とみなす。

(予備費の設定及び使用)

第46条 予算超過又は予算外の支出に充てるため、予算中に予備費を設けることができる。

2 予備費を使用するときは、理事会の議決を経なければならない。

(予算の追加及び更正)

第47条 予算議決後にやむを得ない事由が生じたときは、理事会の議決を経て、既定予算の追加又は更正をすることができる。

(事業報告及び決算)

第48条 この法人の事業報告書、活動計算書、貸借対照表及び財産目録等の決算に関する書類は、毎事業年度終了後、速やかに、理事長が作成し、監事の監査を受け、総会の議決を経なければならない。

2 決算上剰余金を生じたときは、次事業年度に繰り越すものとする。

(事業年度)

第49条 この法人の事業年度は、毎年4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。

(臨機の措置)

第50条 予算をもって定めるもののほか、借入金の借入れその他新たな義務の負担をし、又は権利の放棄をしようとするときは、総会の議決を経なければならない。

第8章 定款の変更、解散及び合併

(定款の変更)

第51条 この法人が定款を変更しようとするときは、総会に出席した正会員の4分の3以上の多数による議決を経、かつ、法第25条第3項に規定する以下の事項を変更する場合、所轄庁の認証を得なければならない。

- (1) 目的
- (2) 名称
- (3) その行う特定非営利活動の種類及び当該特定非営利活動に係る事業の種類
- (4) 主たる事務所及びその他の事務所の所在地(所轄庁の変更を伴うものに限る。)
- (5) 社員の資格の得喪に関する事項
- (6) 役員に関する事項(役員の数に係るものを除く。)
- (7) 会議に関する事項
- (8) その他の事業を行う場合には、その種類その他当該その他の事業に関する事項
- (9) 解散に関する事項(残余財産の帰属すべき者に係るものに限る。)
- (10) 定款の変更に関する事項

(解散)

第52条 この法人は、次に掲げる事由により解散する。

- (1) 総会の決議
 - (2) 目的とする特定非営利活動に係る事業の成功の不能
 - (3) 正会員の欠亡
 - (4) 合併
 - (5) 破産手続き開始の決定
 - (6) 所轄庁による設立の認証の取消し
- 2 前項第1号の事由によりこの法人が解散するときは、正会員総数の4分の3以上の承諾を得なければならない。
- 3 第1項第2号の事由により解散するときは、所轄庁の認定を得なければならない。

(残余財産の帰属)

第53条 この法人が解散(合併又は破産による解散を除く。)したときに残存する財産は、法第11条第3項に掲げる者のうち、国又は地方公共団体に譲渡するものとする。

(合併)

第54条 この法人が合併しようとするときは、総会において正会員総数の4分の3以上の議決を経、かつ、所轄庁の認証を得なければならない。

第9章 公告の方法

(公告の方法)

第55条 この法人の公告は、この法人の掲示場に掲示するとともに、インターネットホームページに掲載して行う。

第10章 雑則

(細則)

第56条 この定款の施行について必要な細則は、理事会の議決を経て、理事長がこれを定める。

附 則

- 1 この定款は、この法人の成立の日から施行する。
- 2 この法人の設立当初の役員は、次に掲げる者とする。

理事長	佐藤政人
常務理事	高橋英二
理事	丹野浩之
監事	押切 厚
- 3 この法人の設立当初の役員の任期は、第16条第1項の規定にかかわらず、成立の日から平成26年3月3

- 1日までとする。
- 4 この法人の設立当初の事業計画及び活動予算は、第44条の規定にかかわらず、設立総会の定めるところによるものとする。
- 5 この法人の設立当初の事業年度は、第49条の規定にかかわらず、成立の日から平成26年3月31日までとする。
- 6 この法人の設立当初の入会金及び会費は、第8条の規定にかかわらず、次に掲げる額とする。
- (1) 正会員入会金 10,000円
正会員会費 5,000円(1年間分)
 - (2) 賛助会員入会金 10,000円
賛助会員会費 10,000円(1年間分)
- 7 この定款は平成26年3月11日より一部改定する。
第4条第4号・第5号、第5条第4号・第5号、第13条第2項、第14条第2項、第15条及び第15条第2項・第3項。